21世紀
日本と中国

李　玉　湯重南　編

北京大学出版社

カルビー日本研究基金助成出版

21世紀日本と中国

国際学術討論会論文集

李　玉　湯重南　編

北京大学出版社

书　　名：21 世紀日本と中国
著作责任者：李　玉　汤重南
责 任 编 辑：杜若明
标 准 书 号：ISBN 7-301-03393-1/D·0349
出　版　者：北京大学出版社
地　　址：北京市海淀区中关村北京大学校内　100871
电　　话：出版部 62752015　发行部 62559712　编辑部 62752032
印　刷　者：北京大学出版社
发　行　者：北京大学出版社
经　销　者：新华书店
850×1168 毫米　32 开本　15.75 印张　392 千字
1997 年 4 月第一版　　1997 年 4 月第一次印刷
定　　价：50.00 元（精装）

目　録

前言……（1）
「21世紀日本と中国」国際学術討論会準備委員会
　中国側主任王学珍氏の開幕式における挨拶……（4）
「21世紀日本と中国」国際学術討論会準備委員会
　日本側主任松尾聰氏の開幕式における挨拶……（6）
中華人民共和国前文化部副部長、中華日本学会会長
　劉徳有氏の開幕式における挨拶……（8）
日本国駐華特命全権大使佐藤嘉恭氏の開幕式にお
　ける挨拶……（10）
「21世紀日本と中国」国際学術討論会準備委員会
　中国側主任王学珍氏の閉幕式における挨拶……（13）
「21世紀日本と中国」国際学術討論会準備委員会
　日本側主任松尾聰氏の閉幕式における挨拶……（15）

西洋文化の吸収にみる近代中日両国の態度の比較 …… 王暁秋（17）
21世紀における日本の産業構造調整と中日両国の
　経済協力 …… 田万蒼（36）
住宅、乗用車の消費からみた中国の経済発展…… 劉方域（47）
三度目の歴史的選択に直面する日本 …… 何　方（66）
人民幣の自由交換と貿易制限 …… 李慶雲（103）
21世紀の東北アジアの国際的枠組みと中日関係 …… 宋成有（122）
日本の近代化初期における文化衝突
　――*日本「儒学資本主義」の弁別・分析* …… 厳紹璗（155）
21世紀の中国文化 …… 何茲全（181）

中日現代化の比較 …… 湯重南(195)
中国の当面の農業問題を論ず …… 陳徳華(224)
中国の伝統文化とその特徴 …… 楊　適(240)
反伝統か伝統回帰か
　——*伝統と中国近代化との関係について* …… 羅栄渠(265)
21 世紀の中国の対日政策 …… 趙宝煦(284)
中国経済体制改革の趨勢について …… 晏智傑(311)
21 世紀初期の東北アジアをめぐる大国間の関係
　について …… 袁　明(322)
21 世紀の東アジア経済枠組 …… 傅驪元(342)
21 世紀の中国文化構築についての思考 …… 楼宇烈(371)
日本経済の構造変化と成長の限界 …… 伊藤　誠(396)
21 世紀の東アジア情勢と日中関係 …… 宇野重昭(412)
日本における中国研究の現段階と21 世紀の課題 …… 溝口雄三(430)
自由・民権・文明
　——*明治期日本の例* …… 渡辺　浩(444)

会議概要 …… (459)
附録 …… (482)

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

前　言

21 世紀の到来をひかえ、人々の関心は、世界が今後どのように発展し、東アジアに位置する中国と日本がどの方向に向かい、中日関係が今後どういうかたちで発展していくかという問題に向けられています。1996 年 3 月 28、29 日の両日、北京で開催された「21 世紀日本と中国国際学術計論会」は、参加者にいくつかの有益な示唆を与えたものと思われます。

この国際学術計論会は、カルビー日本研究基金の援助のもと、北京大学日本研究中心、北京大学経済学院、北京大学アジア太平洋研究中心、カルビー日本研究基金が共同で主催したものです。全国人民代表大会常務委員会副委員長の雷潔瓊氏、前国務院副総理の谷牧氏、また前文化部副部長の劉徳有氏、全人代常務委員の林麗蘊氏、北京大学教授の季羨林氏および周一良氏、日本国駐華特命全権大使の佐藤嘉恭氏、カルビー日本研究基金管理委員会委員長の松尾聰氏ら百余名が開幕式に出席されました。そして中日両国の専門家が一堂に会し、国際政治、経済、文化などの角度から21 世紀の中国と日本について深く研究、討論を行い、多くの分野で共通の認識を持つに至りました。

この成果をより多くの方々にご紹介すべく、我々はこの論文集を編集し、主題報告を行った21 名の学者の論文 21 篇を収めました。21 名の主題報告者のうち17 名は中国の、4 名は日本の、ともに著名な学者ばかりであり、各々の研究分野において大変造詣の深い方々です。21 篇の論文は彼らの最新の研究成果

を紹介したものです。

また、読者の皆様にこの国際学術討論会に対する全体的なご理解を深めて頂くべく、開幕式および閉幕式における関係者の挨拶や、会議日程、会議参加者一覧、会議概要も収録してあります。

ここでご説明しておきたいことが2点あります。(1)収録された論文は中国側学者(筆画順)、日本側学者(五十音順)の順に並べてあり、(2)学術討論の自由な雰囲気と、作者の観点を尊重し、編者はなんら手を加えておらず、文責を各自に帰する原則を貫きました。各論文の観点は作者の個人的な見解であり、4つの主催団体を代表した意見ではなく、またこの学術討論会の結論でもありません。

このたびの学術討論会の順調な開催、およびその円満な成功、そしてこの論文集の出版は均しくカルビー日本研究基金の協賛によっております。同基金は日本の有名な食品会社、カルビー株式会社が出資し、設立したものです。カルビー株式会社の松尾聰会長は、日中友好および日中文化交流にこれまで大変な熱意を傾けてこられ、1994年4月に同基金を設立されました。同基金の主旨は、中国(主として北京大学)の教師、学生および関係する研究機関の日本研究、およびその関連活動を資金援助し、日中文化交流を促進し、両国人民の友誼を深めることにあります。ここに私たちは、カルビー日本研究基金に対し、深い感謝の意を表したく思います。

また、国際会議の開催から論文集(中国語版、日本語版)の出版に至るまで、一貫してご尽力頂いた溝口雄三先生、林振江氏、日本語版翻訳の労を取られた林台、林国本、繆光禎、徐躍廷、金慕箴、章輝夫の各氏、北京大学出版社、日本の有志の皆様に厚く御礼申し上げます。最後に、国際会議に参加された専門家、学者各

位に対し、改めて深甚の謝意を表します。

時間や力量の制約上、いろいろと不備があろうとは存じますが、何卒ご叱正を乞う次第です。

李　玉　湯重南

「21世紀日本と中国」国際学術討論会準備委員会中国側主任王学珍氏の開幕式における挨拶

本日、「21世紀日本と中国」国際学術討論会の挙行にあたりまして、まずはじめに討論会の主催団体である北京大学日本研究中心、北京大学経済学院、北京大学亜太研究中心、及び、カルビー日本研究基金を代表いたしまして、御参加の各指導者、先生方及び、ご来賓の皆様に対し、心より感謝と熱烈歓迎の意を表明いたします。

中日両国の発展は、中日二ヵ国間の関係だけでなく、東アジア及び、全世界の平和、発展につながります。故に次世紀の中国と日本の理想的な関係と、多方面にわたる合作が、世界の平和を大いに促進し、これを通して次の世紀の中日関係を討論することは、学術研究および現実的な意義においても非常に重要であると思われます。

中日両国の関係は両国の関係だけでなく、東アジアの枠組に密接に関係しています。よって、21世紀の東アジアの枠組を深く認識し、そのなかに中日の関係を置き、両国の地位と役割を明確にすることが、これからの両国の友好の長期的で安定した発展につながるのです。

深く中日関係を討論する場合、一方面からだけではなく、多角的に総合研究しなければなりません。即ち、政治(特に国際政治)、経済、及び文化等の領域を通じての討論、特に文化の方面からの研究が、中日両国の理解を助け、またそれこそが、21世紀の

中日両国の友好関係に確固たる基盤をつくるのです。

歴史を振りかえることにより、異なる角度と異なる領域で中日関係を討論することが、現在の中日関係に適切な認識を与え、また21世紀の中日関係に一つの科学的予見をもたらします。故に、本会議は「21世紀の日本と中国」をテーマとするに至りました。

この会議に参加して頂いております日本からの4名の著名な先生方と17名の中国の著名な先生方を主題報告者とし、会議を通して、各々の見解を述べて頂くことになっています。先生方は、各々の研究ジャンルにおいて、深い造詣を有しておられます。この会議において、各先生方の主題報告とそれらの報告を通しての討論が、この国際学術会議に輝きと円満なる成功をもたらすでしょう。

私たちがこの会議に対して期待しますのは、先生方の専門的な研究を通し、21世紀の中日関係の展望を考え、また、中日友好、中日文化交流を推進し、更に我が校と日本の学術界の行き来を拡大し、深めることにあります。私たちは我が校の日本に関係する学科の研究、特に日本の総合研究と日本学研究を推進してゆきたいと考えております。

最後に本会議の経費がカルビー日本研究基金によって拠出されておりますことを申し上げておきたいと思います。この基金は日本の有名な食品会社、カルビー株式会社の出資によって、1994年4月に創立されました。その主旨は、中国の学者、及び関係各機関の日本研究を推進し、更に中日の学術と文化の交流に寄与するというところにあります。

この場をお借りいたしまして、カルビー日本研究基金に心より感謝の意を表明いたしますと同時に、大会の円満な成功をお祈りし、私の挨拶とさせていただきます。

「21世紀日本と中国」国際学術討論会準備委員会日本側主任松尾聰氏の開幕式における挨拶

ご来臨の皆様、中日両国の指導者の方々、先生方、你們好!カルビー日本研究基金管理委員会、及び日本側を代表してご挨拶を申し上げます。

皆様方には大変お忙しい中、お出でを戴きまして誠に有難うございます、お集まりの皆様方は各界を代表される指導者の方々でございまして大変恐縮いたしております。

今日から始まります「21世紀—日本と中国」国際学術討論会の開催には、一年前から北京大学側のご熱心なご協力を戴きまして準備をして参りました。このような盛大な開幕式が実現できましたことは、偏に日中両国の多くの方々の温かいご支援の賜物と心より厚くお礼申し上げます。

この式の後に準備されているそれぞれのプログラムが学術性の高いものであり、大きな成果を挙げるものと期待を致しております。

私が会長をしておりますカルビー株式会社はこれまでも国際的な文化交流、奨学基金の設立、伝統芸能への支援等の活動を行ってまいりました。一昨年の4月、縁がありまして、中国の最高学府であります北京大学の諸先生を顧問に迎え、この先生方のご指導によりまして日本研究を支援する基金を設立致しまし

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

た。この基金は、主として北京大学の若手の日本研究者、及び同大学の主たる研究機関に対しましてささやかな支援を行って参りました。

昨年、当基金の一週年に際して記念行事として、次世紀の日中関係を見据えた国際会議の開催が発議され、その準備を始めたのでございます。

来年1997年には、お国に香港が返還されると聞き及んでおります。今やアジアが大きく変わろうとしています。このアジアが次世紀にはどのような姿になるのでありましょうか。その中で日本と中国の関係をどのように構築していけばよいのか、目先だけではなく、人類共存の未来を見据えた視点でのビジョンが今求められているのではないでしょうか。

このビジョンについて、中国を代表する先生方と日本を代表する先生方とで十分な討論をして頂くことを願っております。また、この会議を契機として、これからもこのような機会が多く生まれることを期待致しております。

来たる世紀に日中両国を担う人々が、素晴らしい世紀を造る意気に燃えて戴くことをお祈りし、開幕のご挨拶と致します。

中華人民共和国前文化部副部長、中華日本学会会長劉徳有氏の開幕式における挨拶

国家指導者の皆様、ご来賓の皆様、友人の皆様

「21世紀日本と中国」国際学術討論会の開幕にあたり、中華日本学会を代表し、お祝いを申し上げます。

人類もあと4年ほどで21世紀を迎えますが、この大切な時期に、中日両国の多くの著名な学者が北京に集い、ともに21世紀の中国と日本について討論を行うことは、大変意義のあることと考えます。現代、つまり20世紀もまもなく終わろうとする今日に生きる私たちが、21世紀の中日関係のありかたを考えることは、いま私たちが直面する重要な課題であります。アジアの重要な国である中国と日本が、長期的かつ健全な隣国としての友好関係を発展させることは、アジア・太平洋地域のみならず、世界の平和と安定に益することであります。過去を顧み、現在に足を踏まえ、そして未来を展望し、21世紀の中日関係の方向について科学的な予見を立てることこそ、本討論会の任務の一つといえましょう。私は、このたびの討論会が歴史を正確に踏まえ、歴史を見据えた基礎のうえに、政治、経済、文化の角度から、21世紀の中国と日本を深く討論・研究し、かつ両国が今後、長期的に安定した健全な隣国としての友好関係を築き、発展させるために、積極的な建議、方策を提起することができれば、この討論会の大きな成果となるだけでなく、中日の友好と経済・

文化交流の発展を大いに促し、中日両国人民の歓迎を受けることでありましょう。無論、これらの課題の探求は、中日両国にのみ限られてはなりません。中日両国の関係は世界的な範囲で考慮せねばならず、またそうするよりほかないことは言うまでもありません。このたびの討論会は重要な学術活動であり、必ずや中国における日本学研究と日本における中国学研究を推し進め、同時にまた、中日両国の学術交流を促進し、両国学者間の友好と相互理解を深めることでありましょう。これらすべては今後の中日両国学術界がより一層拡大し、協力を深めるうえで有利な条件となるでしょう。このたびの学術討論会が、カルビー日本研究基金の支援および北京大学日本研究中心ほか各関係機関の共同の努力なくして挙行されることはなかったと思います。私は、中国の全国的な学術団体である中華日本学会を代表し、中日双方がこの誠にふさわしい時期に、北京においてこうした重要な学術活動を挙行できましたことを、心からお喜び申し上げます。そして、この討論会が円満な成功を収められますことを心より願っております。

日本国駐華特命全権大使
佐藤嘉恭氏の開幕式における挨拶

谷牧　前国務院副総理閣下
雷潔瓊　全国人民代表大会常務委員会副委員長閣下
御来賓の皆様、友人の皆様

本日ここに「21世紀　日本と中国」をテーマとした国際学術討論会が開幕されるに際し、心からお祝い申し上げます。今回のシンポジウムでは21世紀における日中両国の経済発展、21世紀の東アジア政治情勢、21世紀における日中両国文化の発展という議題を中心に、それぞれ基調報告と討論が行われると伺っております。アジア太平洋の時代とも言われる21世紀の到来を指呼の間にして、日本と中国がこの地域の発展と繁栄に果たし得る役割はいやまして大きくなることでしょう。戦後51年、「歴史をかがみとする」ことを再度確認して第1年目を踏み出した本年、こうして日中双方の高名な専門家が一堂に会し、政治、経済、文化の各方面から、「未来に目を向ける」ご議論をいただくことは、誠に意義深いことと考えます。改めてこのシンポジウム開催のためにご尽力された北京大学日本研究センター、同じくアジア太平洋研究センター、経済学院及び資金面でのご協力をされたカルビー日本研究基金を始めとする関係者の皆様に敬意を表する次第です。

日本と中国は、申すまでもなく一衣帯水の隣国の間柄にあり、政治、経済、文化のどの分野においても極めて密接な関係を保っ

ております。しかも、ただ「近い」と言うだけではなく、お互いのニュースが瞬時にしてお互いの茶の間に届くという、かつてなく高度に情報化した状況に置かれております。従って、日中間において互いに相手を深く理解し合うことが、こうした情報を正確に捕らえ、対応する上で極めて重要になっていると思います。私の好きな言葉に、孔子の「近き者喜べば遠き者来たらん(近者説遠者来)」という言葉がありますが、どのようにして互いに深く理解し合い、協力して新しい友好関係を発展させて行くかは、両国にとってのみならず、アジアひいては世界の平和と安定にとって、極めて今日的で重要なテーマと考えます。

今回のシンポジウムを主催された北京大学と言うと、私はこの地にあった燕京大学で教鞭をとり、遺言により今も北京大学のキャンパスに眠っているアメリカのジャーナリスト、故エドガー・スノーを想起せずにいられません。ご承知の通り、スノーは1936年、西側の記者として初めて解放区に入り、「この数年間にわたる国共戦で数千に上る生命が犠牲になっていた。この真相を発見する努力以上に、一外国人の生命を賭けるに足ることがあろうか」との悲壮な決意を以て、毛沢東や周恩来、朱徳などの革命指導者と対話を重ね、知られざる中国革命の実像と未来像を世界の人々に伝えました。

60年前の中国革命の指導者たちは、国籍や肌の色の異なる若きスノーに対して、沈黙でも暴力でもなく、「近き者」として、胸襟を開いた対話によって遇しました。その結果、スノーの著作に触れた少なからぬ「遠き者」に新生中国に対する理解と共感をもたらすことができたのであります。60年後の今日、本日から始まるシンポジウムもまた、限られた時間ではありましょうが、国の体制や言語、習慣の違いを乗り越えて、心と心が結はれた「近き者」としての自由闊達な意見の交換ができることを期待し

ています。スノーゆかりのこの地で開かれる今回のシンポジウムが実り豊かな成果を収められますよう、また、ご在席の皆様方のますますのご活躍をお祈りして、私のご挨拶といたします。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com